

中小企業がHRテックで失敗しないための 3つのポイント

町田 耕一 株式会社新経営サービス 人事戦略研究所 コンサルタント

所在地：京都市下京区河原町五条西入本覚寺前町830 京都EHビル6階 Tel：075-343-0770 <https://www.skg.co.jp>

Web上やタクシーなどで、次のような広告をよく見かけるようになりました。

- ◎ベテラン社員のノウハウが見える化！
人材育成を加速化させる人事管理システム
- ◎「動画配信アプリ」で自己啓発を支援！
- ◎社員の個性をAIが分析し、
相乗効果の高いチーム作りをサポート！

これらは人材マネジメントをサポートしてくれるITシステムであり、「HRテック」と呼ばれています。

HRテックは、すでに様々な場面で活用されており、採用活動から配置、育成、処遇決定まで、何らかのシステムを導入されている企業も多いことでしょう。

- HRテックを活用するメリットとしては、
✓人が行くと時間がかかる人事関連業務の効率上がる
✓個人が仕事をするときの時間と場所の自由度上がる
などが挙げられます。

また、蓄積されたデータを比較検証し、組織における、よりよい意思決定につなげていくためのサポートツールでもあります。

HRテックは大変便利ではあるものの、多くの企業において「まだまだ機能を十分に活用しきれていない」という声を聞きます。

■失敗を防ぐ3つのポイント

そこで今回は、新しいシステムを導入する際に失敗せず、うまく定着させていくための3つのポイントをご紹介します。

①トライアル期間の有効活用

HRテックの検討段階において、多くのシステムではトライアル期間やデモ画面の使用が可能です。

これらのサービスを活用し、運用担当者だけでなく、現場の社員に使用感を確認してもらうとよいでしょう。人事部がよいと思うシステムでも、現場の使い勝手が悪ければ十分に活用することができません。懸念点があれば、システム選定の段階で解消しておくことが望ましいでしょう。

②地道なPDCAによるシステムの定着

システムを導入すれば魔法のように便利になる、と思われがちですが、実はそうではありません。導入から定着までには、相応の運用努力が必要になります。運用担当者を中心に、一定の期間は、現場からの声を集め、使い勝手のよいシステムになるよう改善を図っていくことが重要です。より自社に合った運用をしていくためにも、地道にPDCAを回しながら定着を図りましょう。

③社内にプロを養成する

HRテックが社内に馴染みにくい原因の多くは、社員のシステム操作知識の不足です。これを解消するために、新しいシステムを導入する際は、必ずそのシステムのプロフェッショナルを社内に養成しておくことをお勧めします。システム選定の段階からチームに入ってもらい、導入後は活用セミナーなどを受講して、深い知識を取得してもらいましょう。そして、社内で定期的なスキルアップ勉強会を開き、便利な使い方をレクチャーしたり、社内からの質問にいつでも答えられる環境を整えたりするとよいでしょう。

今回はHRテックの導入に失敗しないためのポイントをお伝えしてみました。システム導入により経営サイドや社員から「便利になった」という声が聞こえるようになるまで、地道に改善を図りながら、定着を目指しましょう。